



神社と四季「茅の輪」



広島県神社庁報

ふたば

二葉

第156号

発行所 広島県神社庁
 広島市東区二葉の里
 ☎ (082) 261-0563
 FAX (082) 261-6628



庁長就任挨拶

広島県神社庁庁長

吉川通泰

多くの関係者各位のご理解とご協力のもと、長年の懸案であった新庁舎建設が始まり今年度中に着工、次年度には竣功移転の運びとなる中、過日役員改選が行われ、図らずも重任する事となりました。

新役員一同皆様のご期待に添うべく心新たに一致協力して諸施策の完遂のため努力し斯界の様々な問題に鋭意取り組んでまいり所存です。

終戦により利己主義が蔓延し公共心の希薄な風潮の中、戦後八十年を迎へ、遠い祖先より受け継いで来た信仰心、伝統文化や価値観の混乱により失われた道義の復興が急務の今日、本宗と仰ぐ神宮におかれましては、御治定を拝し山口祭木本祭が斎行され、いよいよ第六十三回式年遷宮の諸祭事諸行事が始まります。

御遷宮は、持統天皇の御代、初めて御斎行されてより三〇〇年以上営々として努力を重ね、御社殿はじめ御神宝等を新調する物理的な事柄のみならず、清々しく常に若々しき命を更新するとの常若の精神に基づき、永遠の命を継承するとの民族の心の原点を再確認し、また見つめ直す契機ともなり、更には社会の結束を生み出し、護り来た伝統文化を将来に伝えることにも繋がります。

大御心を仰ぎ、国民総奉賛を掲げ神社関係者一致団結し広く活動を展開してまいりたく、皆さまの物心両面に亘りますご支援の程切にお願い申し上げます。

任期当初にあたり神社庁の運営に、尚一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

副庁長就任挨拶



副庁長 渡部公麿

このたび、副庁長の任を重ねて拝命することとなりました。再びこの重責を担うこととなり、身の引き締まる思いでございます。諸先輩方のご指導ご支援、そして県下神職各位のご厚情に、改めて心より感謝申し上げます。顧みますに、世界は依然として不透明な時代を迎えており、各地で続く紛争や分断、さらに近年の気候変動による自然災害の多発など、人類が直面する課題は多岐にわたります。日本国内においても、人口減少や経済の低成長、地域社会の疲弊といった構造的な問題が顕在化し、我々が暮らす社会の根幹が静かに、しかし着実に揺らいでおります。

そのような中であつて、神社という存在が果たすべき役割の重要性はますます高まっております。神社は、地域の精神的支柱として祈りと感謝の心を継承し、社会人々の安寧を祈念する場であります。現代におけるこの役割を改めて見つめ直し、より一層地域社会との絆を深める努力が求められておるとも感じておる所存です。

本年は戦後八十年という節目の年を迎え、被爆地「ヒロシマ」は世界に向けて平和の尊さを発信し続けてまいりました。八十年という時間は、幾多の犠牲と再生の歩みの中で培われた精神的な遺産でもあります。我々神職もまた「鎮魂と平和」の祈りを忘れることなく、御神前において日々誠を尽くしてまいりましたが、この節目にあたり「次の世代に何を託し、どう繋いでいくのか」を真摯に問い直す時機であると受け止めております。

ご存知の通り令和八年には、広島県神社庁の新庁舎が竣工予定であります。これは、次世代を支える基盤を強化し、研修機能の拡充や、県内各社との更なる連携強化を図るための大きな一歩であり、新庁舎は県内視界の未来を築くための象徴となるべき存在であろうとも言えます。

微力ではございますが、今後とも神社界の発展と神職の資質向上、そして地域社会との共生に尽力してまいれる所存でございます。何卒、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。



副庁長 奥 茂宣

本年三月二十八日の定例協議委員会において、図らずも庁長推薦の副庁長として重任することとなりました。

吉川庁長のもと渡部副庁長、また役職員共々に心新たに力を合わせ、諸施策完遂のため前向きに取り組んで参りたく存じます。

さて神社庁として喫緊の事業は言うまでもなく新庁舎の建設移転であります。昨年来ご無理をお願いしていますがご理解ご協力を賜りますれば幸甚に存じます。二十一年に二度の神宮式年遷宮も令和十五年に斎行予定で、既に諸祭儀が始まっています。こちらも前例に従いいずれ奉賛会が組織され斯界もその一端を担う事となるでしょう。

昨今、情報網の発達により多くの情報を瞬時に手に入れる時代となりました。その反面フェイクニュースや詐欺も横行しています。便利を求める代わりに真実を見極める正しい眼も必要になっていきます。古くから「温故知新」「世は変われども神は変わらざ」(八幡大神ご託宣)と言われますが時の遷り変わりと共に新しい手法も必要でしょう。しかし一歩間違えれば加害者にも被害者にもなり得るのです。SNS等を使われる方も多いと思いますが、その発信についても細かな配慮が求められます。私達は変わらぬ神の道を眞の大道と頂き持ちて神社人として日本人としての誇りと伝統精神を次代に継承すべく日々の神明奉仕に努めなければ、と思うこの頃です。

変わらぬご教導を賜りますようお願い申し上げます。

令和六年度定例協議員会

令和七年度予算・諸議案承認される

去る三月二十八日、広島県神社庁講堂で令和六年度定例協議員会が開催された。

当日、五十名(代理二名)の協議員出席のもと、太刀掛議長の進行により、令和六年度業務報告があり、令和六年度一般会計並びに事業会計決算については令和六年七月の臨時協議員会にて報告され、了承を戴いている旨の説明があった。

次に令和七年度神社庁運営方針・業務計画・予算の各議案が上程され、原案通り可決決定された。

議案第七号では庁舎建設に関する議案が上程。庁舎建設委員会櫻井建弥委員長より昨年七月の臨時協議員会から十一月末の業者入札までの経過や入札による業者選定、現在までの業者との設備打ち合わせや値引き交渉についてなど順を追って説明があった。また、交渉が長引いていることで着工日の予定が遅れているが、今年度中の完成予定であり、土地売却の交渉も進めていることが併せて報告された。最後に櫻井委員長より各神社や神職の事情は様々だが庁舎建設に係る寄付の更なる協力を要請した。

議案第十号では役員の任期満了による神社庁役員の改選が行われた。令和七年二月十日に開催された役員選考委員会の審議結果が追林委員長から報告が為された。一旦休憩をはさみ、各ブロックから報告された理事を含め、議長から役員選任について諮ったところ、議場から質疑・異議がなく報告通り決定された。

令和七年度 広島県神社庁運営方針

- 一、皇室の尊厳護持に努める。
- 一、第六十三回神宮式年遷宮を迎えるにあたり、諸準備に努める。
- 一、戦後八十年にあたり、平和の礎となられた英霊を顕彰する。
- 一、庁舎移転の完遂と共に次なる懸案事項に取り組む。



非公表

役員改選（令和七年三月二十八日改選）



庁長
福山八幡宮
宮司 吉川通泰



副庁長
邇保姫神社
宮司 渡部公磨



副庁長
沼名前神社
宮司 奥 茂宣



第一ブロック理事
廣瀬神社
宮司 渡部公彦



第二ブロック理事
田中山神社
宮司 植木重夫



第三ブロック理事
神田神社
宮司 高橋宜純



第四ブロック理事
御建神社
宮司 三善孝昭



第五ブロック理事
山神社
宮司 巻幡 俊



第六ブロック理事
良神社
宮司 奥 康就



第七ブロック理事
八幡神社
宮司 奥山哲治



第八ブロック理事
熊野神社
宮司 小原義識



第九ブロック理事
長尾神社
宮司 佐々木盛良



庁長指名理事
嚴島神社
宮司 野坂元明



庁長指名理事
空鞆稻生神社
宮司 内田嘉彰



総代会選出理事
広島護國神社
役員 中尾建三



総代会選出理事
天満神社
役員 久川廣明



総代会選出理事
沖原山神社
役員 辻駒健二



総代会選出理事
天満神社
役員 谷口秀則



監事
高尾神社
宮司 梶山友美



監事
長谷神社
役員 武郷勝己



本庁評議員
庁長 吉川通泰



本庁評議員
副庁長 渡部公磨



本庁評議員
本庁評議員
宮司 太刀掛祐之



副議長
大頭神社
宮司 松原弘毅

本庁評議員
広島神社総代連合会
役員 中尾建三

教化委員長就任のご挨拶



飯田 誠

今期も引き続き委員長を務めることとなりました。改めまして三年間、どうぞよろしくお願い致します。各支部より選出の教化委員の方々にご尽力いただきながら、務めてまいります。

さて、本年は令和十五年に予定されています第六十三回式年遷宮の諸祭が始まる年です。神宮にありましては五月二日諸祭の始まりを告げる「山口祭」と「木本祭」が執り行われました。令和十五年の遷宮に向けて諸祭・諸行事準備が粛々と進められていくこととなります。この遷宮は当然ながら多大なる浄財を必要とします。そして神宮大麻も大きな財源です。よって神宮大麻の頒布は斯界において永遠の命題であります。そのためにはどういった取り組みが必要か特に都市部への浸透はどういった取組みが有効なのか、大麻頒布を担う方々の後押しをするにはなにが必要なのか、種々検討したいと考えております。

なお、今期も県独自の紙媒体の作製は極力控えてまいります。新聞の購読数の減少や週刊誌の廃刊等からもわかるように、手に取って読んでもらえることが期待できないのが現状です。紙によるものは本庁が作製するものがありますので充分ではないかと考えます。かわりに神社庁HPの充実等デジタル分野に取り組んでいく予定にしております。皆様のご理解ご協力をお願い致します。

広島県神社庁教化委員会組織図

教化委員長	飯田 誠	教化副委員長	日下 厚志
		教化副委員長	郡山 龍

教化委員長								
研修部会			奉斎・広報部会			調査・研究部会		
	支部	氏名		支部	氏名		支部	氏名
◎	安芸	宗像 利道	◎	尾道御調	郡山 龍	◎	府中芦品	日下 厚志
○	広島市	秋本 将司	○	佐伯大竹	松原 愛氣	○	三原	千日 学
	福山	松本 宜久		呉	高橋 利齊		沼隈	長島 海吏
	安佐	植木 繁之		因島瀬戸田	大泰司 加代		山県東	井上 敏明
	山県西	梶原 武彦		三次	佐藤 功		安芸高田	青山 博昭
	豊田竹原	越智 正浩		庄原	谷本 義典		賀茂	井口 貞春
	深安	徳永 淡路		神石	伊藤 光		世羅	籾花 慎二
	比婆東	磯川 浩之		比婆西	伊達 貴臣		甲奴	八谷 秀幸
	広神協	高橋 宜純		女子神	久保田 桂子		青神会	池田 憲明

◎印=部会長、○印=副部会長

○広島県神社総代連合会

令和七年四月八日改選

新役員紹介
広島県神社庁諸団体

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|------|------|----|------|----|-------|-----|------|-----|-------|------|-------|----|------|------|------|----|------|----|-----|----|------|----|------|-----|------|-----|------|
| 副会長
辻駒健二
(沖原山神社役員) | 副会長
久川廣明
(天満神社役員) | 会長
中尾建三
(広島護國神社役員) | 佐伯大竹 | 河野太郎 | 安芸 | 宗像利道 | 安佐 | 甲斐野欣子 | 山県東 | 森脇成一 | 山県西 | 中東勇太郎 | 安芸高田 | 波多野公一 | 賀茂 | 三善孝昭 | 豊田竹原 | 梶山政孝 | 世羅 | 竹廣浩二 | 深安 | 岡田順 | 神石 | 福場快之 | 甲奴 | 田中律子 | 比婆東 | 磯川浩之 | 比婆西 | 児玉朝光 |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|------|------|----|------|----|-------|-----|------|-----|-------|------|-------|----|------|------|------|----|------|----|-----|----|------|----|------|-----|------|-----|------|

○広島県青年神職会

令和七年四月十日改選

- | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 副会長
伊達正泰
(二野宮神社宮司) | 会長
瀬戸一樹
(速谷神社権禰宣) | 理事
西川征吾
(大歳神社役員) | 理事
岩山泰憲
(八幡神社役員) | 理事
佐々木康宏
(八幡神社役員) | 理事
邑岡昭二
(大宮神社役員) | 理事
稲葉憲治
(岡崎神社役員) | 理事
石田晃司
(多家神社役員) | 理事
笠井公俊
(三成八幡神社役員) | 常務理事
田河博隆
(礎神社役員) | 常務理事
谷口秀則
(天満神社役員) |
|--------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|

○広島県女子神職会

令和七年三月二十三日改選

- | | | | | | | | | | | |
|------------------------|-----------------------|------------------------|----------------------|-------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|
| 副会長
追林雅子
(吉備津神社) | 副会長
久保田桂子
(東照宮) | 副会長
吉川明美
(福山八幡宮) | 会長
高橋育代
(神田神社) | 副会長
宮永美恵
(八幡神社宮司) | 副会長
松原ひさみ
(大頭神社権禰宣) | 副会長
高橋育代
(神田神社権禰宣) | 会長
久保田桂子
(東照宮権禰宣) | 事務局長
河野太郎
(八幡神社宮司) | 副会長
松原愛氣
(大頭神社権禰宣) | 副会長
湯浅昌彦
(広島護國神社権禰宣) |
|------------------------|-----------------------|------------------------|----------------------|-------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|

○広島県敬神婦人会

令和七年五月十四日改選

- | | | | |
|------------------------|-----------------------|------------------------|----------------------|
| 副会長
追林雅子
(吉備津神社) | 副会長
久保田桂子
(東照宮) | 副会長
吉川明美
(福山八幡宮) | 会長
高橋育代
(神田神社) |
|------------------------|-----------------------|------------------------|----------------------|

庁報編集委員



委員長
長田光則



内藤善文



池田憲明
(教化委員会から推薦)



長島海吏
(教化委員会から推薦)



松原ひさみ
(女子神から推薦)

新庁報編集委員あいさつ

この度、庁報編集委員長を命ぜられました。新任になり、皆様の必要とする情報、神社界の意義、課題等を発信していきます。少しでも皆様のお役に立てればと思います。よろしくお願いたします。
(横田)

前期に続いて、庁報編集委員を務めさせて頂く事となりました。引き続き皆様の役に立つ情報収集、発信を心掛けて参ります。どうぞよろしくお願いたします。
(内藤)

この度、庁報編集委員を務めさせて頂いたことになりました。広島市支部の庁報通信員との兼任という事で、読者の皆様に読みやすい、参考になる庁報の発行を目指していきたいと思っております。よろしくお願いたします。
(池田)

この度、庁報編集委員を拝命いたしました。皆様と一緒に、ご覧いただける庁報をお届けできるよう、微力ながら尽力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。
(長島)

平成二十五年から二期、女子神職会より委員を務めさせて頂いておりましたが、再度拜命致しました。久々の編集作業に不安はありますが、少しでもお役に立てればと存じます。宜しくお願い致します。
(松原)

令和7年度 神社庁行事予定

実施予定月日	行 事	対 象	主催・担当	場 所		
4	8(火)	県総代会役員会	総代会役員	県総代会	神社庁	
	8(火)	県総代会評議員会	総代会役員・評議員	県総代会	神社庁	
	21(月)	教化委員会	教化委員	神社庁	神社庁	
	22(火)	女子神祭式研修会	女子神職	女子神職会	神社庁	
5	9(金)	女子神正式参拝〔大蔵〕艮神社〕	女子神職	女子神職会	尾道市	
	28(水)	神政連県本部両護國神社参拝	役員・青年隊・代議員	神政連県本部	備後護國神社、広島護國神社	
	30(金)	女子神祭式・日本書記	女子神職	女子神職会	神社庁	
6	3(火)～4(水)	初任神職研修会(前段)	初任神職	神社庁研修所	神社庁	
	7(土)～15(日)	直階検定講習会(甲)(分割開催)	神職子弟他	神社庁研修所	神社庁	
	17(火)	表彰委員会	表彰委員	神社庁	神社庁	
	18(水)	神職教養研修会	神職	神社庁研修所	神社庁	
7	5(土)	身分選考委員会	身分選考委員	神社庁	神社庁	
	6(日)～13(日)	直階検定講習会(乙)(分割開催)	神職子弟他	神社庁研修所	神社庁	
	17(木)	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	神社庁	
	17(木)	神社庁常任協議委員会	役員・支部長	神社庁	神社庁	
	17(木)	神政連県本部代議員会	役員・代議員	神政連県本部	神社庁	
	19(土)	祭祀舞研修会(浦安の舞…扇舞)	神職他	神社庁研修所	神社庁	
	27(日)～8/3(日)	直階検定講習会(丙)(分割開催)	神職子弟他	神社庁研修所	神社庁	
8	7(木)	教化常任委員会	教化常任委員	教化委員会	神社庁	
	7(木)	教化委員会	教化委員	教化委員会	神社庁	
	8(金)	祭祀舞研修会(浦安の舞…鈴舞)	神職他	神社庁研修所	神社庁	
	22(金)	祭祀舞研修会(朝日舞)	神職	神社庁研修所	神社庁	
	28(木)	第69回広島県神社関係者大会	神職・総代他	神社庁・総代会	県立文化芸術ホール	
9	3(水)～4(木)	初任神職研修会(後段)	初任神職	神社庁研修所	神社庁	
	6(土)	神職専門研修会(祭式・衣紋)	神職	教化委員会	神社庁	
	12(金)	女子神専門研修*日本書記輪読	女子神職	女子神職会	神社庁	
	19(金)	神宮大麻曆頒布始奉告祭	役員・支部長	神社庁(佐伯大竹支部)	神社庁	
	26(金)	神職身分認定証交付式	昇級者	神社庁	神社庁	
10	28(火)	女子神専門研修*日本書記輪読	女子神職	女子神職会	神社庁	
11	6(木)～7(金)予定	中国地区神社庁職員研修会	中国地区神社庁職員	広島県	広島県	
	28(金)	第71回伊勢神宮新穀感謝祭	神職・氏子・崇敬者	神社庁	神宮他	
12	2(火)	神社実務研修会	神職	神社庁研修所	神社庁	
令和8年	1	未定	神社庁歳旦祭	三庁長・神社庁職員	神社庁	神社庁
		未定	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	Hグランヴィア広島
		未定	神社庁・総代会合同新年互礼会	神社庁・総代会関係者	神社庁・総代会	Hグランヴィア広島
	2	14(土)	神社庁例祭	役員・支部長・神職他	神社庁	神社庁
	3	未定	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	神社庁
		25(水)	女子神総会	女子神職	女子神職会	神社庁
未定	班斂式・定例協議委員会	神社庁役員・協議員	神社庁	神社庁		

非公表

非公表

非公表

新任神職紹介（転入・再任含）



呉支部
伏原神社
権禰宜 宮野雅旭



広島市支部
饒津神社
宮司代務者 上田重安



広島市支部
三篠神社
権禰宜 野上佳輝



広島市支部
住吉神社
権禰宜 羽井匡紀



広島市支部
広島護國神社
権禰宜 川上友士



三次支部
長神社
宮司 豊岳則子



府中芦品支部
吉備津神社
権禰宜 尾多賀史章



福山支部
八幡神社
禰宜 加藤五十鈴



沼隈支部
高諸神社
権禰宜 柳田晏隆



尾道御調支部
蘇和稲荷神社
禰宜 藤井優衣



賀茂支部
御建神社
禰宜 三善和真



賀茂支部
雷八幡神社
権禰宜 荒谷捺穂



安佐支部
大野神社
禰宜 野村和広



佐伯大竹支部
嚴島神社
権禰宜 竹内康太



三次支部
八幡神社
禰宜 長尾勇樹

神社実務研修会報告

世羅支部 野原八幡神社 宮司 竹廣浩二

師走を迎え令和六年十二月三日(火)の穏やかな日中に広島県神社庁研修所に於いて「神社実務研修会」の半日研修が尾多賀晴吾先生、潮健史先生を迎えて四十三名の参加者で行われた。開講式では奥副庁長により神宮遥拝また挨拶では研修会参加の必要性を云われた。続いて飯田教化委員長より神社の福祉の為に地元の文化や祭りでの神楽の重要性を篤く語られました。

午前中の講義では吉備津神社禰宜の尾多



賀晴吾先生による「広島県の神楽と神職の生涯学習」と題して行われた。先生は元福山市の学芸員を務められ神社庁では元教化委員長、現在も民俗学の研究をされ、神楽の研究も熱心です。先ず神楽の定義として神事的な部分と芸能としての神楽と二つの側面があり、広島県の庁報にこれまでシリーズ神楽として平成二十五年から六年間に及ぶ記事の連載が続けられた内容についてふれられた、広島県は神楽と言っても県内で大きく五個に分けて安芸の國南部の安芸十二神祇、安芸の國北部の芸北神楽、備後国北部の比婆荒神神楽・比婆齋庭神楽、備後国南部の備後神楽、芸予諸島の神楽とそれぞれが特徴的で神事的要素が強いものや芸能に特化したものや多彩でそれぞれが特徴的な神楽でありこの地域ごとの文化を正しく残し伝承することは大切な事ではあるが発展や衰退があり地域・神社で神楽を行うことが非常に大切であり、更には記録や資料化することや、常に情報発信することが必要で庁報はこれからの資料・発信に大変重要な役割を持つているとのことでした。

つづいて「広島県神社庁が今まで県内全神職を対象とした収集・整理・調査・研究・普及について」と、これまで広島県神社庁の担当部署が収集し整理、協議を行いその成果である刊行本の紹介や庁報のこれまでの様々なシリーズ企画を紹介されそれぞれの神職の協力が広島県のものすごく重要な資料を作っている事、また自身も関わり協力する事により神社をはじめ地元や地域を知り氏子に少しでも話ができると感じました。



つづいて午後からの講義では、亀山神社名誉宮司の潮健史先生による「祖霊じまい・霊璽の書き方について」と題して行われた。この講義は神職の中でも要望が多くリモート研修会に始まり今回三度目と記憶している、先生は刊行本「神葬祭」、「改定版 神葬祭」の教員委員で県内の神葬祭を広く研究されて、この二十年間のお寺の減少や一極集中の結果の過疎地域の人口減少から祖霊じまい(家じまい)、墓じまい等社会的に要望の高まっている事に重要な講義をいただいた。死生観や戒いについての考え方等に始まり火葬に至る背景や奉幣行事の在り方、夫婦別姓問題、また実務的な霊璽に書く諡号しごうの付け方、書き方に「祖霊廃祀祭詞」や「送天霊詞」「祖廟霊鎮祓」など提示され、霊璽や墓石の扱いや廃却の仕方に至るまで事細かに講義された。なかなか聞くことが出来ない貴重な講義であった。先生の経験豊かな講和をぜひともまた聞かせて頂きたい。充実した研修に先生方をはじめ教化委員会の方々に感謝します、ありがとうございました。

各委員会の令和六年度活動報告及び令和七年度活動計画

■ 教化委員会

委員長 飯田 誠

令和六年度 教化委員会活動報告

教化委員会 三回開催

教化常任委員会 三回開催

第三期過疎地域等神社活性化推進施策 指定神社・支部選定

指定神社 良神社(廣瀬紋佳宮司)

指定支部 世羅支部(林幸和支部長)の野原八幡神社(竹廣浩二宮司)

中国地区教化会議(於…広島県神社庁・オンライン、担当 山口県)

全国教化会議(神社本庁)

■ 研修部会

教養研修会(六月二十五日、三十五名)

専門研修会【祭式、衣紋】(九月七日、二十一名)

実務研修会(十二月三日、四十名)

■ 奉斎・広報部会

教化ポスター「イノリはエルだ」推活中の女性が神社で祈願をする様子を表す

神宮大麻奉斎テレビCM放送(TSSテレビ新広島にて年末年始五十本)

三次支部 日熊山・大歳神社を中心に行われた記念行事をプレスリリース

■ 調査・研究部会

YouTubeで【Chat神主】発信 神職の素顔を発信

第三回 早稲田神社 池田紘美宮司

第二期過疎地域神社活性化推進施策指定神社 推進拠点の支援活動

関係者大会でハネル展示

庁報編集委員会へ協力

令和七年度 教化委員会活動計画

■ 研修部会

教養研修会、専門研修会、実務研修会の三研修会開催予定

■ 奉斎・広報部会

教化ポスター作成と広島県神社庁ホームページ更新、神宮大麻奉斎テレビCMの放送

第三期過疎地域神社活性化推進施策の指定神社・推進拠点の支援活動(良神社・世羅支部)

■ 調査・研究部会

第三期過疎地域神社活性化推進施策の指定神社・推進拠点の支援活動 神社活性化県内事例の調査研究

■ 事業委員会

委員長 大巳 至通

常日頃より事業部をご利用賜り厚く御礼申し上げます。

まず、令和六年度の事業報告です。

「予算・運営について」 増収減益となりました。

コロナウイルス禍から緩和され、神社を取り巻く環境もほぼ平時を取り戻す動きになる一方、授与品・神社関係用品などの手配状況は、歯止めが無い価格高騰の結果、金額を押し上げることによる売上増。しかしそれ以上に経費なども上昇し、利益確保も減益となりました。

新年度(令和七年度)について。

①「予算について」

今年度も神社庁繰入に支障がないように昨年に準ずる予算に設定しました。

②「運営について」

昨年度、受発注トラブルを起こし多大なご迷惑をお掛けした案件がありました。それを糧にチェック機能意識した受発注システムを見直し運用する予定です。七五三の千歳館を再編成します。別途書式にて概要をご案内致します。

約十年前までは業者側から商品提案、販促などが事業部・各神社に於かれての光景でした。しかしそれが一転、現在では「何とか作って欲しい」、「間に合わせてほしい」と神社側が懇願する現状に。事業部では神社・業者双方困窮することが無いように取り組む所存です。

人手原材料不足など業者の事情も考慮の上、引き続きご利用賜り、神社庁運営を負担軽減すべく「共助」の翼を担って戴ければ幸いです。

祭祀委員会

委員長 福場 快之

昨年度に開催された四部会での研修会は左記の通りです。

特に印象に残るのが、第六十八回広島県神社関係者大会に於いて、十四名により朝日舞が奉奏された事です。祭祀舞部会の十五周年記念事業として、三月から希望者による稽古を重ねる中、八月七日には國學院大学の山口祐樹助教を招聘して、舞に於ける正装衣紋(祭典時とは少々異なる)について指導を受け、積み重ねた研修の成果が実り、当日は立派な朝日舞が奏されました。

また、本年は直階検定講習会が開催されるわけですが、受講者は二十名です。久しぶりに定員を超える大人数であり、私どもも例年以上に気分を一新して臨みたいと考えます。

その他、各種研修会も予定されており、神社庁から案内がありましたら大勢の参加をお願い致します。

① 祭祀部会

4月22日

女子神職会 祭式研修会

5月14日・16日

中国地区中堅神職研修会

6月5日

初任神職研修会「前段」

6月7日～16日

権正階検定講習会(甲)

7月5日～14日

権正階検定講習会(乙)

7月26日～8月4日

権正階検定講習会(丙)

9月7日

祭式並衣紋研修会(教化委員会主催)

2月14日

神社庁例祭奉仕

2月25日

女子神職会 祭式研修会

② 神道行法部会

5月13日

中国地区中堅神職研修会

9月10日

女子神職会

3月10日

青年神職会

③ 祭祀舞部会

7月10日～12日

神社本庁祭祀舞講師研修会

7月13日～14日

祭祀舞部会研修会(宮内庁より東儀李祥榮長補)

7月20日

神社庁研修会 浦安の舞「扇」

8月6日

原爆慰霊祭(浦安の舞奉納)

8月18日

神社庁研修会 浦安の舞「鈴」

8月21日

朝日舞研修会

8月25日～27日

神社本庁祭祀舞指導者養成研修会

8月28日

神社関係者大会にて朝日舞奉奏

3月7日

朝日舞研修会

5月～9月

雅楽稽古

2月14日

神社庁例祭奉仕

庁報編集委員会

委員長 横田 光則

令和六年度は、先の編集方針の下、活動いたしました。

一、神社庁、神社庁各委員会との連携強化を図り、情報を提供する。

二、支部通信委員による各支部、神社の活動、及び各地に伝わる様々な有形、無形の文化財等紹介記事充実。

三、シリーズ企画の推進・充実。

四、神社界における適時な話題・課題等の掘り起こし。

今年度も各部門の協力を頂き、原稿提出の遅れもなく、計画通りの内容・期日に発行することが出来ました。また社紋については継続して、それぞれの社紋について解説しております。

令和七年度編集方針

一、神社庁、神社庁各委員会との連携強化を図り、情報を提供する。

二、支部通信委員による各支部、神社の活動、及び各地に伝わる様々な有形、無形の文化財等紹介記事充実。

三、シリーズ企画の推進・充実。

四、神社界における適時な話題・課題等の掘り起こし。

充実した内容のためには多くの情報が必要です。広範囲からの情報提供をお願い致します。支部通信員の皆様にはより一層のご協力をよろしくお願致します。また作り手、読み手のキャッチボールも大切と考えます。今後も紙面に対してご意見・アドバイスなどありましたらご発言お願致します。

神社庁関係団体 令和六年度活動報告



広島県神社総代連合会
会長 中尾建三

この度、会長を仰せ付かりました広島護國神社の責任役員の中尾でございます。この大役、佐藤前会長さんを始め、神社庁又関係各位皆様のご指導とご協力を頂き、任を務めさせて頂く所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、現在の神社界では、人口減少、少子高齢化に伴い過疎地での神社運営に支障があることが課題になっていきます。私共神社総代会は、それぞれの奉仕神社をしっかりと守り一宗教を越へた日本の文化でもあります神社神道のため尽力しようではありませんか。以下、令和六年の活動報告でございます。

令和六年度事業報告

- 四月四～五日 第四十五回全国神社総代会幹部研修会 一名
- 四月十九日 役員会 一〇名
- 評議員会 一四名

五月二十一日 全国神社総代会代議員会

三名

八月二十八日 第六十八回広島県神社関係者大会

一〇三五名

九月二～三日 広島県神社総代連合会研修会

一八名

九月十一日 第五十九回全国神社総代会大会

三名

十月二十九日 第七十回伊勢神宮新穀感謝祭

一七一名

一月二十九日 神社庁・総代連合会合同新年互礼会

三五名



広島県青年神職会
会長 瀬戸一樹

平素より当会の諸活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、篤く御礼申し上げます。本年四月の定例総会におきまして、会長に選任いただきました。甚だ微力ではございますが、斯道興隆の為誠心誠意努める所存ですので、今後とも二層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年度は定例総会、社会福祉法人みどりの町での神棚祭並びにスポーツ交流会、神道行法錬成研修会、国旗掲揚推進キャンペーン、神職子弟の集い、神青協の神宮研修会など通常の会務に加え、当会の創立七十周年記念事業の二環として、令和六年十一月には戦前と戦後の神社の景観を比較することができる記念誌『写真でみる広島神社』の発刊。そして、本年二月には沖縄県糸満市に建立される「ひろしまの塔」において慰霊祭を斎行し、沖縄戦で散華された御霊に哀悼の誠を捧げました。令和五年から取り組んで参りました周年事業を無事に終えることが出来ましたのも県内宮司、神職、総代の皆様方のお力添えによるものでございます。重ねて御礼申し上げます。

本年度は、大東亜戦争終結八十年の節目の年にあたります。常に平和について考え行動する一年となります。周年事業で培った経験を活かし、戦没者慰霊祭を斎行する予定です。今後とも変わらぬご支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



広島県女子神職会
会長 久保田桂子

平素より当会の諸活動につきまして格別のご高配を賜り篤く御礼申し上げます。

本年三月二十五日の総会におきまして、会長に選任されました。皆様のご指導を仰ぎながら、誠心誠意努めて参りたいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

昨年度は恒例の祭式研修、日本書記輪読を各三回開催、また神道行法錬成研修を錬成行事道彦松原弘毅先生にご指導いただき、会員の資質の向上を目指しております。

五月三十日には、初代会長原八重子先生と元会長渡邊百合枝先生を偲ぶ会を神社庁で行いました。敬神婦人会の役員もお務めでしたので、当会と敬神婦人会の二十名が集いました。六月三日、四日は福山市にて中国地区女子神職研修会を開催し、中国五県から三十六名が参集しました。初日は吉備津神社正式参拝と宮司追林貴之先生のご講義、その後素戔嗚神社参拝と宮司江熊康夫先生よりご講義をいただきました。翌日は杉森神社宮司岡田光統先生から「神社の振興と信仰」と題したご講演を拝聴いたしました。

全国女子神職協議会は三十五周年の佳節を迎え、伊勢での式典のほか各種研修会へ延べ十二名が参加しました。

今年度は、大祓詞の理解を深めるべく「大祓詞の心 大祓詞の解釈と信仰」をテキストに学んでいく予定です。

これからも「楽しく為になる女子神職会」をモットーに、親睦を深めつつ研鑽を積んで参りたいと存じます。今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



広島県敬神婦人会
会長 高橋育代

皆様には平素より当会の活動にご理解とご協力を賜り、篤くお礼申し上げます。令和六年度も多くの活動を実施しましたので、ご報告いたします。

令和六年五月十日、第四十二回総会を、五十四名の参加で開催しました。当日は草津八幡宮に正式参拝させて頂き、その後「三滝荘」へと移動して総会を執り行い、昼食をとりながらの親睦を深める場としました。

八月二十八日には台風の心配されるなか、第六十八回広島県神社関係者大会にて十四名でお手伝いの機会をいただきました。

第七十四回全国敬神婦人大会北海道大会が九月二十七日に開催され、二十名で参加してまいりました。大会に先立ちまして、九月二十五日には札幌諏訪神社を正式参拝させて頂き、神社の歴史や文化を学びながら参加者一同あらためて感謝の念を深めました。常任委員会では、北海道神宮を正式参拝いたしました。

大会では、北海道出身の三國清三シェフをお招きしての講演を拝聴しました。食文化を通じた貴重なお話をお聞きし、北海道の地で会員の皆様と共に活動すること新たな視点や学びを得る機会となりました。

また、「日の丸小旗製作」は本年度も会員の皆様で五千本製作していただきました。

令和七年度は、戦後八十周年の年です。八十年間 戦争をしていない尊い国で、引き続き皆様と共に豊かな活動を進めて参りたいと思えます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

新庁舎は来年四月完成へ

庁舎建設委員長 櫻井建弥

建物の老朽化と耐震強度不足のため、建て替えを計画している広島県神社庁の新庁舎は、建設地を廿日市市にある速谷神社境内地とし、着工を今年九月、完成を来年四月とする日程が固まりました。

◇着工にむけた経緯◇

新庁舎建設をめぐることは、昨年十一月、県内外の建設会社五社を対象に競争入札を実施しました。しかし、このところの建設資材や労務費の異常な高騰は予想をはるかに超えて、入札価格はいずれも本体工事の予算額(三億五千万円)を大きく上回っていました。

そこで建設委員会では、(一)神社庁として支払い能力には限界があり、このまま入札を繰り返しても不成立が続く恐れがある。(二)次回式年遷宮の募財活動が本格化する前に庁舎建設を終える必要があり、時間に限りがあることから新たな入札は行わず、最も低い価格で入札した広島市に本店を置く(株)増岡組と工事金額並びに設計変更について修正協議をはじめることになりました。

そして昨年末から断続的に交渉した結果、当初の計画と比べて、二階の延べ床面積を六百二十㎡と約十四%減らすとともに小型エレベーターや屋根裏収納庫を設計から外すことなどによつて、工事金額を当初の約四億五千万円から三億八千万円余りにまで圧縮する方向で、現在詰め作業を行っています。それでもなお予算額より三千万円余り高く、これは予備費四千万円を活用したいと考えています。

庁舎はやや小さくなりますが、最近完成した神奈川県や埼玉県の神社庁とほぼ同じ規模で、屋根も入母屋造平入と日本建築の美しさを活かした品格ある外観はそのままです。

また二階にある一部吹き抜けの玄関ホールや機能的な事務室、資料を集約管理できる大型書庫、外陣や大床に必要なスペースを割り十分な環境で祭式研修が実施できる神殿も健在です。

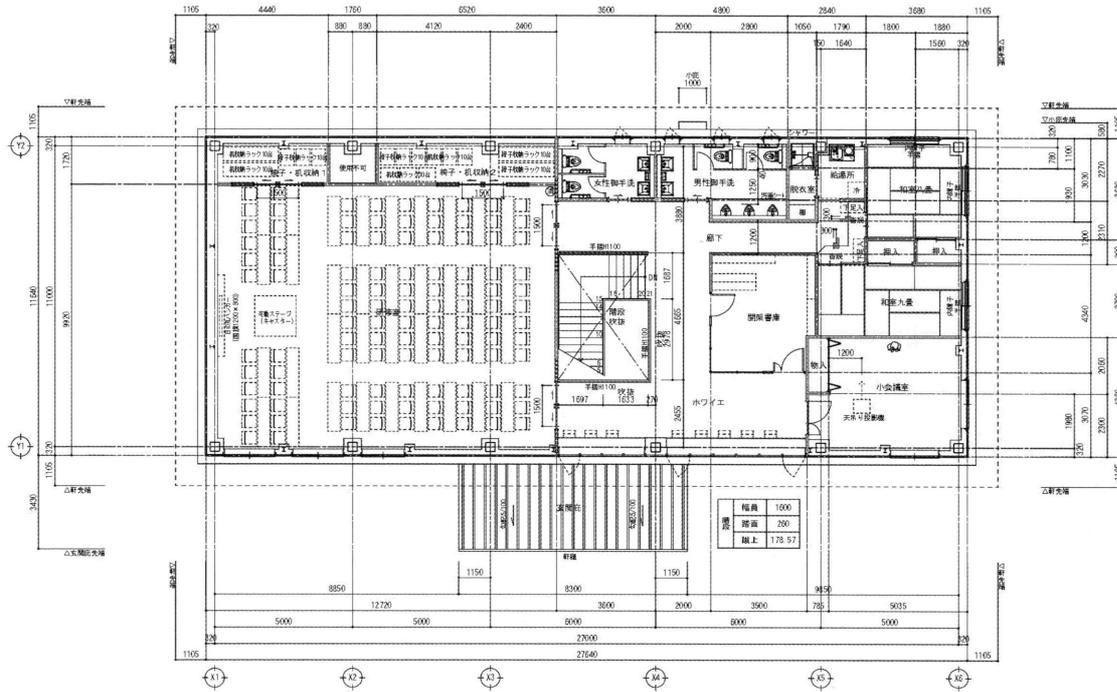
二階中央には、南東向き展望カウンターを備えた休憩・社交スペース「ホワイエ」があり、九十人が一堂に会す研修室(講堂)やオンライン会議も可能な小会議室、ガラス張りの開架書庫など現代的な施設に変更はありません。

◇募財の状況とお願い◇

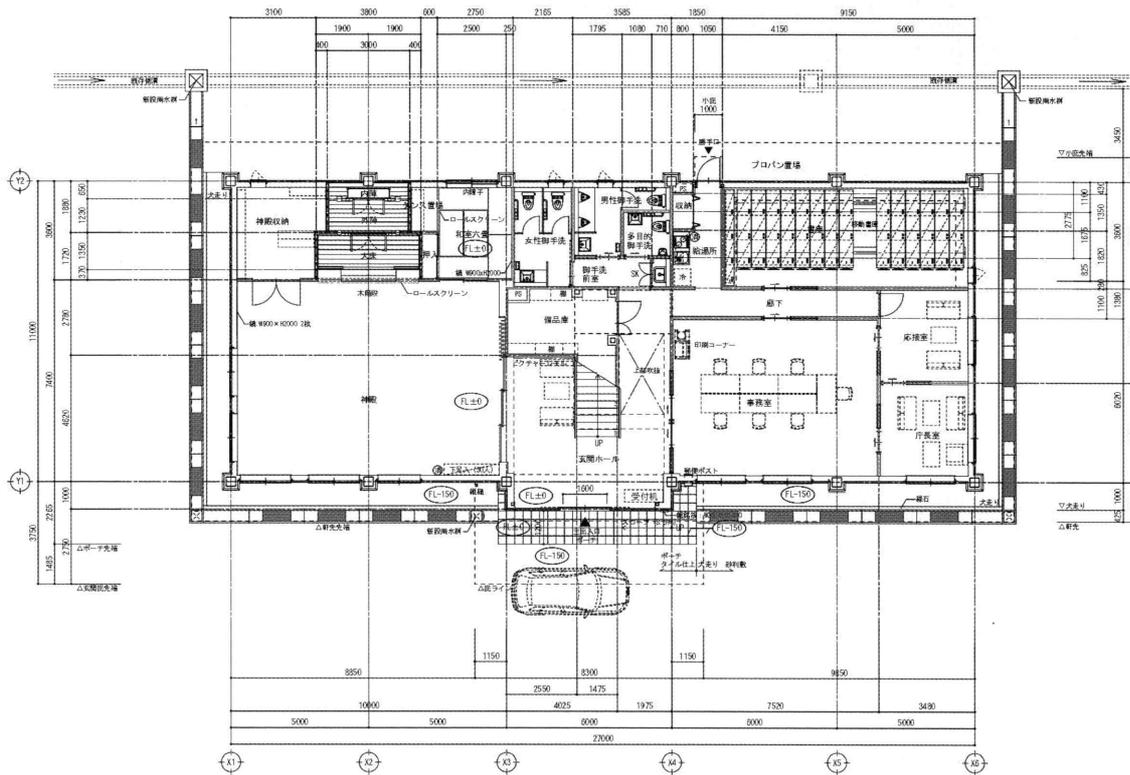
総事業費は四億三千万円を見込んでいて、前年度から三年に分けて寄進を仰いでいます。そして四月末現在の募財額は、前倒しで入金してくれた支部もあり、二億四千四百六十九万円とすでに目標の五割を超えています。

別表神社九社や県総代連合会からは早々に全額送金されたほか、取引企業や総代個人からの浄財もお預かりしています。さらに総事業費のうち約二億円(庁舎解体費除く)を見込んでいる旧庁舎の土地の売却についても交渉は大詰めです。

ただ建設工事には施工途中の設計変更は付き物で、神社庁にはこれ以上想定外の出費に対応する余力はありません。新庁舎はこれからの広島県神社界を支える要となる施設です。一定の収入のある神社には、一口三万円の神社割について五口、できれば十口のご協賛を賜りたく何卒お願い申し上げます。



新庁舎2階平面図



新庁舎1階平面図

神社界が抱える諸問題についての検討③ 庁報編集委員会

平素より庁報編集委員会の諸活動に對しまして格別のご理解ご協力を賜り篤く御礼申し上げます。

当委員会では神社や神道に關してどのような記事を掲載すべきか折に触れて話し合いをしております。以前、神社界が抱える諸問題についての記事も掲載いたしました。第四百四十六号では「コロナ禍の諸問題」、百四十七号では「キャッシュレス決済」についての話題をとりあげました。

その後、さらに社会情勢が変化し、様々な問題が発生しています。いずれも賛否両論ある内容が多く、公正・公平性を考えるところを結論付けることが難しい内容であるため、新たな諸問題についても、当会で議論したありのままの姿を会話形式で掲載し、問題提起する形とさせていただきます。

…とある日の庁報編集会議にて

「コロナ禍に手水の柄杓を撤去したり、遠隔(バーチャル)参拝、祈祷の郵送受付、御守の郵送頒布等様々な試みをした神社があったと思うが、現在はどうしているのか。良かった点、悪かった点の振り返りをしなければならぬ。」

「結局、遠隔(バーチャル)参拝は参拝者に受け入れられなかった可能性が高い。御守の郵送頒布や、祈祷の郵送受付もそこまで増えてはいないと思う。」

「幸先詣(さいさきもよう)で十二月に参拝して新年の御守や破魔矢などを受ける(を)随分コロナ禍に宣伝した神社があったが、職員が多い神社にはメリットが多少あるのかもしれないが、中小規模の民社にはほぼメリットは無い。十二月に頒布したところで全体の頒布数が増えるわけでもなく、逆に十二月に手を取られ正月準備に悪影響がある。きちんと長期的な視点で検討することが重要である。」

「神葬祭の簡易化(二日で通夜祭と神葬祭、納骨祭を行う等)は相変わらず進んでいるのか。」

「コロナ禍以降、家族や親族のみで神葬祭を執り行うことが非常に多くなってきました。日本人の死生観や魂の行方など、次世代にきちんと伝える必要があるのに、それら教化すべき神職でさえも簡素にしてしまっていると感じる。死について触れにくいことはあるかもしれないが議論をせずに簡易化を認めてしまうと取り返しがつかなくなる。」

「最近、物価高(奉製費、人件費、光熱費等全て)の影響があるが、どう対応しているのか。」

「御守の初穂料を上げる等して対応している神社が多い。玉串料は簡単には上げられない。」

「全体的な議論は殆どなく、各神社が個別に対応している状況。」

「郵送料も令和六年十月から上がった、銀行の振込手数料も年々上昇している印象がある。」

「神社界にも様々な組織があるが(支部、校友会、女性会、婦人会、青年会等々)、例えば千円の会費を振り込む時に、郵送料、振込手数料で二百円強、さらに領収証の希望があれば郵送、印刷費や封筒代を入れると五百円程度かかる。」

「千円の会費を徴収するのに五百円の手数料は高すぎるのではないか。」

「赤色の払込用紙(会側の手数料負担)を全員に送って会費等を振り込んでもらうやり方は今後厳しい可能性が高い。ネット振込の利用や、振込の控えがある場合は領収証を送らない、といったようなことをある程度全体として申し合わせた方がよいのではないか。」

「硬貨入金手数料(お賽銭等)の問題はどうなったのか。」

「金融機関に配慮をしてもらっている一部の神社を除いて、二円玉の入金赤字になる。」

「きわめて政治的な問題。社寺が困るのははじめから分かりきった話である。政治的解決が急がれる。」

「ペーパーレス、連絡事項の電子化(郵送料・効率性)はどうすべきか。」

「紙を無くせば良いという問題ではないので、慎重な議論が必要。」

「郵便の深夜仕分けの廃止、翌日配達や土曜配達の取りやめにより、以前に比べて郵送に時間を要するようになった。連休や土日を挟むと体感的にも届くのにかなり時間がかかる。連絡手段についても全体的に改善の余地がある。」

当委員会ではこれらの賛否両論ある諸問題について議論しないことを良しとするのではなく、二つ三つ議論して、神社界全体として共有することが大切であると考えております。

今後とも庁報に關しまして忌憚のない意見を賜りますようお願い申し上げます。

支部だより

広島市支部

「広島まちなか神玉巡拝」

広島市支部(内田嘉彰支部長)では、「広島まちなか神玉巡拝」を実施した。これは広島市内九社の神社(尾長天満宮・東照宮・饒津神社・広島護国神社・白神社・神田神社・空鞆稲生神社・旭山神社・草津八幡宮)で授与している神玉を神紐に通し、自分だけの御守りを完成させるといふもので、中国地方では初の実施となる。神玉には各神社の社名と社紋やオリジナルデザインが書かれており、神紐は各社異なる色となつている。



令和七年二月一日より各神社で授与を開始したが、三が日にはすでに巡拝される方々がおられ、SNSでは完成した御守りの写真の投稿が多く見受けられた。神玉は五〇〇円、神玉・神紐セットは一〇〇〇円で広島市内九社の神社で授与している。

ホームページは以下↓
<https://kamitamajumpai.com/>
kaminamamap-cat/hiroshimamachinaka/

(池田憲明 通信員)

三原支部

「大注連縄の新調奉納」

令和六年十二月一日(日)に御調八幡宮(桑原國雄宮司)の氏子有志が社殿をすす払いした後、新春に向けて十年ぶりに新調された大注連縄が拝殿前に奉納されました。各社殿の注連縄は毎年新調されていますが、拝殿の大注連縄はこれまで三〜五年で新調され平成二十六年の奉納後、平成三十年に予定されていた奉製は西日本豪雨により延期され、その後も新型コロナウイルスの流行で見合わせが続きました。



これまでの奉製で指揮を執っていた人も近年亡くなり、伝統が途絶えてしまうのではないかと危機感を覚えた氏子の有志が十年ぶりの大注連縄奉製を決定。九月に餅藁五アルを刈り取り、十一月二十三日〜二十四日に氏子有志延べ六十名が集まり、藁を編み込んだ薦に芯の藁を包み、注連縄の形に整えました。青みの残る長さ八メートル、重さ百キロの大注連縄を運び張り替え作業を行いました。前回の経験者が少ない中、手間取る場面もありましたが、概ね予定通りでき氏子一同安堵しました。

(桑原光彦 通信員)

山県東支部

「北広島町道の駅 舞ロードIC千代田」

広島県の北西部、島根県との県境に位置するのが北広島町。平成十七年に芸北大朝千代田・豊平の旧四町が合併し誕生してから今年で二十周年を迎えました。一〇〇メートル級の山々が連なる西中国山地の麓、江の川と太田川の二つの源流域で、その清らかな水は日本海と瀬戸内海へと注がれています。

古くから私達の先人が行ってきた、天地に対する尊敬や感謝を表す花田植や神楽などの農耕儀礼を今も変わらず受け継ぐ伝統があります。

道の駅舞ロードIC千代田の大畑和憲駅長は、「直産「北広島市場」では、町内で収穫された新鮮な野菜・果物や菓子類などのお土産が豊富にそろい、月に一度無料で観覧できる定期神楽公演があります。北広島ライブの拠点として是非、機会があればお寄り下さい。」と話していた。



(石橋正敏 前通信員)

安芸高田支部

「歳旦祭と奉納神楽」

郡山城の麓、毛利元就縁の安芸高田市吉田町鎮座の清神社は、波多野公二宮司により令和七年の歳旦祭を執り行った。皇統の繁栄、五穀豊穰、地域の平和と繁栄などを祈念し、田丸道男総代長や総代が玉串を奉奠した。昨年末にはまとまった雪があり、厳しい寒さとなったものの、本殿前では参拝者のために火を焚き、穏やかな年越しとなった。



新年を迎えると同時に太鼓で歳旦祭の神事が始まり、本殿前に並んだ参拝者の初詣が始まった。今年も年越しの神楽も奉納され、大晦日の二十三時頃から神楽「神降し」、「土蜘蛛」、歳旦祭後には「大江山」が奉納され、多くの参拝者で賑わった。

ここ数年、樹齢七百年を超えるといわれている市の天然記念物「五本の御神木の杉」が樹勢を落とし、樹冠部に枯れ枝が目立ち始めた。新年を迎えるにあたり、神社として参道や境内に枯れ枝等の落下注意喚起の看板を設置するなど、参拝者へのできる限りの安全配慮の対策を講じた。市教育委員会によって施肥等養生の措置が行われているが、樹勢の回復を願うばかりである。

(波多野公二 通信員)

広島市支部

「カープ必勝祈願」

去る三月二十七日(木)、広島市中区基町に鎮座する広島護國神社(藤本武則宮司)にて、広島東洋カープの松田二宏代表取締役常務オーナー代行と新井貴浩監督、堂林翔太選手会長をはじめ、選手、スタッフら四十四名が参拝し、必勝祈願祭が斎行された。



藤本宮司の祝詞奏上後、豊栄の舞を奉奏。そして松田オーナー代行、新井監督、堂林選手会長が順次玉串奉奠を行い、七年ぶりのリーグ優勝と四十二年ぶりの日本一を祈願した。さらに新井監督と堂林選手会長は、日本一と願掛けをした絵馬を奉納した。

堂林選手会長はメディアのインタビューにて、「もちろん優勝、日本一ということ pensando 祈願させていただきました。明日からいよいよ昨年の悔しさをぶつけられる時が来ましたので、最後にみんなで笑えるように、一年間しっかりと戦っていききたいと思います。」と話した。

(池田憲明 通信員)

安芸高田支部

「サンフレッチェ広島必勝祈願」

三月二十六日、恒例のサンフレッチェ広島必勝祈願祭を、毛利元就ゆかりの安芸高田市吉田町鎮座の清神社(波多野公宮司)で執り行った。監督、選手、スタッフ、フロントの約五十人が参拝した。

祭祀に先駆けイヨ、理ヘンリー、東俊希両選手が全選手の思いを込め「祈制覇」と記したひととき大きな絵馬を、中野就斗選手が大しゃもじを奉納、波多野公宮司の祝詞に続き、久保雅義社長、ミヒヤエルスキッベ監督、選手を代表して佐々木翔選手が玉串を奉奠し必勝を祈願した。

スキッベ監督が甲冑姿の毛利元就に扮した市民から「三矢の訓」にちなんだ三本の矢を受取った後、毛利三兄弟縁の三市町で構成している三矢の訓連携協議会の藤本悦志安芸高田市市長、岡田吉弘三原市長、箕野博司北広島町長から百二十キロのコメが贈呈された。藤本市長が代表して激励の挨拶を行い、必勝祈願祭を無事終了した。



二〇二五年シーズンは既に開幕しているが、現在三位につけリーグ制覇に向け好スタート切っている。

(波多野公一 通信員)

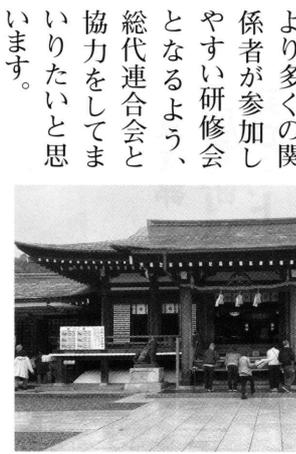
三次支部

「神社視察研修会」

去る令和七年三月二日に、三次総代連合会 神社視察研修会が行われました。例年は二泊での研修会としておりましたが、旅行代金の高騰もあり参加者の負担も考慮し、本年度は日帰りでの研修会となりました。今回は山口県防府市に鎮座します防府天満宮を訪れました。

当日は残念ながら雨模様ではありませんでしたが、梅の花も咲き始め、美しい花と良い香りで参拝者を歓迎しているかのようでした。正式参拝後には、防府天満宮の説明、境内の案内をして戴き、大変勉強をさせて頂きました。その後、昼食時には参加者同士で、各神社の状況や抱えている問題などを話しておられ、情報交換や交流を深めることができました。今回は日帰りでの研修会となりましたが、各神社の総代、神職が地域の状態を実際に知る、有意義な時間を過ごされたのではないかと思います。

次年度以降についても、より多くの関係者が参加しやすい研修会となるよう、総代連合会と協力をしてまいります。



(小島直樹 前通信員)

尾道御調支部

「神社視察研修会」

尾道御調支部では、古来からの伝統的な行事を学ぶために、総代を始め氏子崇敬者と共に各地の神社を訪れる研修旅行を執り行っています。令和七年の春は、国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つである肥後国「宮」阿蘇神社の田作祭「御前迎え」を見学するため阿蘇へ行きました。

御前迎えは、若松神社にて女神を迎え、道中は坂迎えという接待を受け、最後に白粧の儀を行ってから、阿蘇神社の拝殿で年禰神と女神との婚姻の儀を執り行うという祭事です。参道では女神の到着を祝福して松明を振り回す「火振り神事」が執り行われ、研修旅行に参加した向東八幡神社の氏子さんも火振りをさせていただきました。

阿蘇神社は熊本地震で楼門と拝殿が全壊するなど甚大な被害を受けましたが、祭りを支える崇敬心の篤い氏子達と全国の崇敬者により再建を果たしました。伝統的な行事を続けることが神社の維持発展に重要だということを痛感いたしました。



(郡山龍 通信員)

世羅支部

「小国の荒神祭」

世羅町大字小国に伝わる荒神祭は、祇園神社、菅原神社、中央大宮神社、両化八幡神社の四社合同のお祭り、小国地区に鎮座します百余数の荒神様を合祀し、七年に一度執行される。

今年は七年目にあたり両化八幡神社神楽殿に於いて、齋主に兼外直樹宮司、副齋主に後藤秀樹宮司の二名により行われた。神楽殿には藁で作った大蛇二頭が左右に巻き付けられ頭の下には「えぐり」と呼ばれる籠のような物が取



り付けられ、中には藁で作った蛇体と五穀が入る。三月十六日は生憎の雨となり寒さも戻り、足下も悪く大変な始まりとなった。荒神祭に欠かせない神楽は竹廣浩二宮司、横山大介宮司をはじめ錚々たるメンバーで奉納頂いた。先

支部だより

ずは清めの舞、勧請の舞が行われ神々をお迎えして祭典が行われた。次に五行祭は備後神楽ならではの語りの舞、中央に飾られた見事な造花引き、四人で刀を持って舞う剣舞、天狗の面を付けて舞う悪魔払い、大蛇退治の能で八重垣、盃をお盆・刀に乗せくるくる舞う折敷舞、最後に白い布を引き合う布舞。約十時間にわたる大神楽を奉納して頂きました。境内では、両化八幡神社の若連中により、うどん・焼き鳥・フランクフルト・飲み物の売店も開かれ、集客にご尽力頂いた。

今回の荒神祭の準備に於いて、大蛇や「えぐり」を作れる人がいないので、指導員捜しから始まった。小国地区に限らず世羅地区全体で少子高齢化が進んでおり、氏子数に対する神社の数も多く、各神社の運営が困難になってきています。ご先祖様が伝承してこられたお祭りを絶やすことの無いよう次に繋げたいものである。天候の悪い中、ご来場下さいました教化委員、宮司、県・町の教育委員会の皆様、有り難うございました。

(藪花慎二 前通信員)

庁報一五六号をお届けいたします。

新年度となり、神宮では第六十三回式年遷宮の最初の祭儀である山口祭が五月に斎行され、六月には御神体をお納めする御器を奉製する為の、御樋代木が内宮外宮に奉曳されました。神社庁におきましても役員改選が行われ、それぞれの委員会にも新しい顔ぶれが加わり、八月には新庁舎の地鎮祭が斎行されます。

常若の精神で心機一転、新たな始まりの第一歩を踏み出しましょう。

庁報編集委員一同

編集後記

神石支部

「神石支部神社誌を作成」

昨年の秋に神石支部（福場快之支部長）が発刊した神社誌について紹介します。平成六年に広島県神社誌が発刊されてから、改めて支部内神社の歴史を精査した上で読みやすい神社誌を作成し、との機運が高まり平成二十三年時の瀬尾清孝支部長を編纂委員長として委員会を結成し、十二年を経てやっと完成しました。

神社の歴史は地域の歴史でもあります、この伝統を後世に伝えるべき記録として、歴代の神職責任役員・巫女等の名も解る範囲で記し、写真も多用し現在の神社の在りようが見て取れます。

編集に際し参考文献は多岐にわたり、当支部では奉務神社の神社誌を独自に作成した宮司も複数あります。



すので記しておきます。更に編纂委員長を交替して務め上げられた次重寛禧宮司が氏子区域に関する書籍も出版されているので合わせ記します。

松井孝之宮司（亀山八幡神社）
朝井元昭宮司（深草天神社・下井関八幡神社）
矢壁秀利宮司（亀山八幡神社他六社）
次重寛禧宮司（猪鼻山八幡神社）
「有木物語・鬼の話」
福場快之宮司（青瀧神社）

（福場快之 通信員）

府中芦品支部

「文化財防火デー（一宮さんで合同消防訓練）」

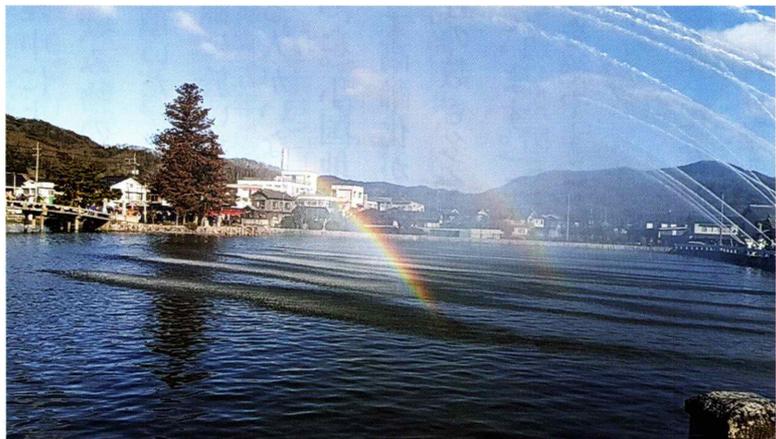
福山市新市町の備後一宮・吉備津神社（追林貴之宮司）で、二月二十六日に『第七十二回文化財防火デー』に伴う「重要文化財合同消防訓練」が実施された。『文化財防火デー』は、昭和二十四年二月二十六日に法隆寺（奈良県）金堂の壁画が焼失したことをきっかけとして、全国で防火訓練がおこなわれている。



この日の訓練は、早朝より同神社の関係者や地元住民、約百五十人が各自家からバケツを持参して、バケツリレーによる初期消火の訓練を最初におこなった。

その後通報で駆けつけた、福山地区消防組合芦品消防署と、福山市消防団第七方面隊、同第二方面隊およびポンプ車・タンク車十二台が出動して行われた。

今回は、新しい自動消火設備による防火訓練として、放水銃四基、消火栓二基を全開にして行った。その後、地元参加者による「消火器訓練」と参加車両による御池での「斉放水」がおこなわれ、防火意識の向上と、地域の文化財の大切さを改めて認識した訓練となった。



（尾多賀晴悟 通信員）